

存じまする、左様なら……エ、旦那、行て來ました」「そりや大儀やつた、どうぢや、解つたかな喜助」「へい解りました、ちようは長い、づは頭といふ事やさうで、何でも長い頭を廻はすと、斯う云ひました」「チョット待て、喜助、長い頭を廻はせて云ふが、長い頭ちうのがあるかいナ」「ござりますがナ、村外れの市平、アリヤ五尺の手拭で、頬被りが出來ません」「エー、えらい頭の長い奴があるんぢやなア、ウムさうか、さうすると殊によつたら、その頭が大阪まで評判になつて居るところから、婿どんが面白がつて見るんぢやらう、そのげほうの市平さん呼びにやつて下され」「承知いたしました」といふので、げほうの市平さんこそ好い面の皮です、早速とお庄屋さんのお呼びですから、怪しい羽織を引掛けまして「へい、お庄屋の旦那さま、お早うござりまする」「ハイ……ウフ、フ、こりや成程、随分長い頭やなア、これ市平さんとやら、お前さんの頭が評判になつてるのんや、大阪の婿どのが御座つて、ちようづを廻せちふ、ちようづは長い頭の事ぢや、それを廻はして朝の目覺しにするんぢやろ、椽側へ立つて待つてござる、お前裏口の所から廻つて婿どのは前で、その頭を廻はして呉れんか」「何んでござりまするか、わし、この頭をお婿さんの前で廻はしまするか」「さうや早う行て、廻はして下され」「畏まりました……こりや、えらい事を吩咐かつたぞ、妙な事をするんぢやなア、頭を廻はしたりして……ハイ、お早うござりまする」「ハイお早うウフ、ツ……おもよチョット來て御覽、面白い長い頭の人ややつて來た……お前はん、何ぢや」「へい、旦那どんに頼

まれて參りました、私がちようづを廻はします」「アツ、お前が洗水を廻はして呉れるのか、さうか實は先程から待つて居るのぢや、早う廻はしてお呉れ」「では廻はしますぞ（頭をクルクルと廻し）サア、この通り廻はしますぞ、よう御覽下さりませ」「それ、何をしてるのんぢや、そんな事ではないがな、洗水を廻はして呉れいといふのやがな……」「それやで、この通りそらッこの通り廻りますぞ（しきりに頭を廻はす）」「コレ早う廻はさんか」「早うですか、それでは、この位に廻はしたら、何うです」と長い頭をクル／＼クル／＼と廻はして居りましたが、その中に到當目を廻はして仕舞ひました、之を見て居りましたおもよさん、お可笑いやら、阿呆臭いやら「お父つさん、誰が長い頭を廻はせと云ひました、ちようづが分らんなら、分らんと妾まで聞きなされば好いのやないかなんぼ田舎の者は物を知らんかと云ふて、餘り分らんすぎる、こんな田舎に居るのは妾嫌やわ、若旦那早う大阪へ歸りませう」と云ふのでドサクサ紛れに、駕籠を五挺揃へて大阪へ引上げて仕舞ひました。後に残つたお父つさん「コラツ喜助、チョット來い」「へい」「これから、大阪に親類が出來れば、度々往來もせねばならんし、取引もせんならん、その時にちようづを廻はせと云はれたら、之を知らんで居つては貝野村の耻辱になりますが、なあ、こりや何うしたもんぢやらう、喜助」「さうだすな、旦那さま、こりや斯う云ふ具合にしたら何うだす、これから兩人で大阪へ行きまして、何處かの宿屋へ泊つて、朝早う起きて、椽側で女中を呼んでなちようづを廻はせと吩咐けるのだす、さうし